

徳泉寺報

No.0026

発行
令和元年12月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

お内仏

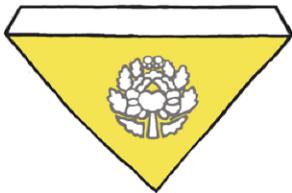
お正月を迎えましょう

まもなく令和元年も終わりを迎えます。

毎年のことながら、一年を振り返りお正月を迎えるために、それぞれのご家庭でそれぞれの準備の仕方があると思います。日常生活とはまた違ったその習慣は、それを伝えてきた先人の息遣いを感じることが出来る数少ない年中行事でもあるように感じます。

真宗ではご家庭にあるお仏壇のことを「お内仏」と言います。これは「内持仏」家庭の中に仏を持つ、という意味があります。そして、お内仏の場とは、仏と成って私たちの生きる道筋を示してください。いるご先祖に出会う場であり、どんな私であるのか、どんなふうにしてきてどんな風に歩んでいくのかと自分をたずねる場でもあります。手を合わせ、私のいのちの本当の願いを聴き安心して帰っていただける場所が家の中にある、ということがお内仏の持つ大きな意味だと言えます。そんな大切な場所に改めて遇わせていただくのがお正月です。ご家庭ごとにお内仏のお正月準備をされることと思いますが、ここで一般的なお正月のお備えを紹介させていただきます。お仏壇の形状や場所によって違いがありますが、参考にさせていただければと思います。

①打敷 (うちしき)



お正月や報恩講、お盆やお彼岸など特別な法要の時に用いる打敷。お釈迦様が説法をするときに敷いた敷物が起源と言われ、ここに法座が開かれることを意味します。

②鏡餅



命の恵みを表す鏡餅。ご本尊に向かって対になるように飾ります。前卓が小さくおさまりきらないときは前机などに備えましょう。

③仏花



日頃から命あるものを象徴して飾られる仏花。お正月用としては松や梅、南天、笹、水仙などを花材にして少し改まった形で生けられます。



お正月用にお飾りしたお内仏の様子